

学校教育目標		子供の笑顔があふれる幸せな学校		重点目標	失敗からの学びを活かし、自他の伸びを喜ぶ子供の育成			
評価計画				自己評価		学校関係者評価	改善計画	
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策(案)	
重点目標に関する評価	自ら学ぶ力 「わかった」「できた」喜びをもつて学ぼうとする子供の育成	【授業】 ○ 教えることと考えることを重点化・明確化した、「めあて」のある授業	○ 児童アンケート「自分のことをふり返ろう」 「学校の勉強が楽しい」 →肯定的回答：80%	4	○低学年では肯定的回答の割合が高く、学年が上がるにつれて下降傾向にある。しかし、全学年を通して結果としては、指標である80%を上回ることができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 コロナの対応が5類に移行し、コロナ以前に戻すというよりコロナを克服して新しい対応を作るという校長先生の姿勢がよくわかる指導だと感じた。 単元テストの「知識・理解」については、個人差があるので、今後も継続してほしい。 ICTの活用により「思考力・判断力・表現力等」が伸びている点が素晴らしい。 知識・技能は反復学習をすれば成果が上がりやすく、非認知能力の育成も期待できる。 ICTを活用し、中友小と合同で検定を実施してはどうか。 	
		○ 教師アンケート「めあて」を明確にした授業→実施：80%	4	○子供目線で、何をどう追究していくか、明確にするめあてになるよう設定した。	A			
		○ 単元のテスト 「知識・技能」→正答率：85%	3	△知識の習得度合に個人差があり、めあての改善だけでは十分に対応できなかった。	A			
		【授業】 ○ 体験や具体的活動を通して子供が考えたことを書く活動を位置付けた授業	○ 国語単元テスト 「書く」→正答率：80%	3	○タブレットの「縦式」アプリを使ったことにより、容易に書いたり書き直したりと、書くことへの抵抗が少なくなった。	A		
		【学力アップタイム等】 ○ ICT等を活用し、基礎基本の問題に反復して取り組む。	○ 実態観察：タブレットを使って基礎的基本的な内容に取り組む子供→80%	4	○タブレットでドリル学習することで学習意欲が増し、自己採点が容易になり自分の伸びが見える化できた。	A		
	【家庭学習】 ○ 自由課題による家庭学習を行わせる。(3年生以上で週2回以上、1・2年生は実態に応じて)	○ 児童アンケート「自分に必要な学習や、やりたい学習を考えて実行できる」→肯定的回答：80%	3	○日常的にタブレットを使いドリル学習を行うと共に、各学期末の家庭学習強調習慣にあわせて「大正検定」を行い、目標に向かって取り組むことができた。	A			
	豊かな心 よりよい学校や社会をつくるために、自ら行動する子供の育成	○ 持続可能な社会の創り手を育てるESD・地域社会等のひと・もの・ことを活用したカリキュラムの実施と子供のノートによる個別評価	○ 各学年のテーマに基づき学校や社会のために自分にできることを考え、表現したり行動したりする子供→児童観察、ノート80%	3	△コロナ対策のため、また、各学年の活動に応じたGTの確保ができなかったため、活動の修正や見直しがあった。	A		<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 いつも学校に行く子どもたちの方から挨拶してくれて、元気な気持ちになった。 フラワータウンプロジェクトやピオトップの取組は地域との繋がりや環境への配慮など、これからの社会に必要な考え方を身に付けられたのではないかと思う。花壇についても整備が行き届いている。小中一貫で取り組めたらいい。 掲示物も児童の取組や良さが見える。
		○ 係や当番、掃除の指導と評価 ・明快で意欲を高める掲示 ・清掃活動の場、帰りの会等での評価	○ 児童アンケート「だまって黙々と掃除をがんばっている」 →肯定的回答：80%	3	△掃除をする心地よさを味わわせるために、帰りの会やお昼の放送などで児童のよさを褒める手立てが不十分だった。	A		
		○ 生活の規律や習慣についての指導と評価 ・よい行為を取り上げ、ほめる。	○ 児童アンケート「時間を守っている」 →肯定的回答：80%	3	○中休みや昼休みの時間を守って行動できるようになってきている。	A		
			○ 児童アンケート「元気に挨拶をする」 →肯定的回答：80%	3	△挨拶されたら返す子や、学校外で地域の方へ挨拶ができない子など自ら進んで挨拶するよさを実感できていない。	A		
○ 登校後「いつも名札をつけている」 →児童観察：80%			3	△名札の着用が習慣化してきたがまだ十分とは言えない。	A			
特色ある教育活動	フラワータウンプロジェクトを通して感性を養い、自然に親しむ心を育む。	○ 児童アンケート「植物や生物を大切にし、自然に親しむ」→肯定的回答：80%	4	○フラワータウンプロジェクトを始めとした特色のある教育活動に関して、自然に親しむ子供が増えた。	A			
いじめ防止 いじめをしない、させない子供の育成	いじめ防止 いじめをしない、させない子供の育成	○ いじめアンケートにもとづく聞き取りや教育相談の実施→100% 認知したいじめの解消→100%	4	○保護者へのチェックリストやいじめアンケートを基にいじめを認知し、学校全体で指導できた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は上方修正すべきである。 3校の生徒指導担当者を中心に、実態把握を行い、共通のルールで指導していくことが大切ではないか。そして、気になる児童の保護者に対しては根気強く協力を求めているかどうか。 友達の良いところをカードに書いて掲示する活動は、互いの良さを認め合う学校文化づくりにつながっている。 先生方のアンケートに基づく聞き取りにより、思いやりの心が育っている。 		
		○ 5月にいじめに関する内容の道徳の指導を実施。「親切・思いやり」「友情・信頼」の指導を毎学期1時間実施。	○ 道徳科授業の実施による児童の変容いじめとは何かを知り、いじめをしない、させない子供→ノート記述90%	3	○友達との関係についてこれまでの自分を振り返り、これからの生き方について考えられるようになってきている。		B	
		○ 各学級で、言葉遣いの指導を具体的に行う。心が温かくなるやさしい言葉⇔乱暴な言葉、悪口	○ 児童アンケート ・人の悪口やちくちく言葉を言わない→肯定的回答：80%	3	△学級での指導や道徳科で指導を行ったが、実感を伴う理解にまで高められなかった。		A	
		○ 児童会の取組の充実 ・挨拶運動、メルシーアーチの活動	○ 「友だちのよいところをカードに書き、よさを認め合う子供」 →児童観察・カード記入100%	3	○カードを児童昇降口前に掲示したことで、児童の関心が高まり、よさを認め合う意識が高まってきている。		B	
		○ 家庭との連携 ・家庭用チェックリストの配付・実施	○ チェックリストの記述への対応(保護者への聞き取り)→100%	4	○チェックリストの記述に十分対応できた。		A	
不登校防止 元気に登校してくる子供の育成	不登校防止 元気に登校してくる子供の育成	○ 福岡アクション3の実施 ・欠席1日で連絡、欠席3日で家庭訪問	○ 学校生活アンケート「登校意欲」 →1.2以上	3	△児童宅へ定期的に担任や管理職が訪問し、本人や家族と話すことができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 学校と家庭との連携が取れていてその結果が現れている。 SSWとの連携を図り、継続的なアプローチが大切。 	
		○ 出欠状況の確実な把握	○ 毎日のアプリと健康観察による、無届け欠席・遅刻の確認→100%	4	○8:30までに管理職・担任・養護教諭・支援加配が複数体制で出欠状況を確認できた。	A		
		○ SC,SSW等関係機関と連携し、気になる子供への即時対応	○ 担任の毎月の早期発見チェックシートの確実な実施→100%	4	○早期発見シートを確実に実施し、気になる児童の情報共有ができた。	A		
働き方改革	意識改革と業務改善	○ 会議資料のペーパーレス化、教材のICT活用、授業資料の共有、他の職員との連携協力、重点化した教育活動の推進	○ 超過勤務の削減 昨年度比-10%	3	○資料のペーパーレス化を進めた。また、水曜4校時により、午後に研修会等をまとめたため、他の曜日にゆとりができた。 △コロナ禍で行えなかった行事の準備や打ち合わせのため勤務超過もみられた。そのため、昨年度と同水準の削減に留まった。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 働き方改革の面でもICTが効果的に活用できている。 コロナ等の感染症にはまだまだ注意が必要だが、先生方には配慮してもらい感謝しかない。 	

◇自己評価 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)
 ◇学校関係者評価 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである